キャラクター名
海泡 海十

プレイヤー名

シンドローム	キュマイラ キュマイラ	ワークス	高校生	カヴァー	高校生
オプショナル		年齢	16	性別	男
覚醒	探求	衝動	殺戮	初期侵食率	32 %
出自	天涯孤独	経験	親友	邂逅	保護者

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	6	1	1			8
感覚	0	0	1			1
精神	0	0	1			1
社会	2	0	0			2

HP	37
行動値	3
(非装備時)	3
戦闘移動	8
全力移動	16

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	4		射撃			ＲＣ	2		交渉		
回避	2		知覚	1		意志			調達		
運転：			芸術：			知識：			情報：噂話	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
素手	白兵	8r+4	1	LV+8		《破壊の爪》後のデータ
獣爪撃(100%↓)	白兵	12r+4		13		【侵蝕値4】《コンセントレイト+獣の力》（《完全獣化》《獣の爪》使用後）
獣爪撃(100%↑)	白兵	13r+4		16		【侵蝕値4】《コンセントレイト+獣の力》（《完全獣化》《獣の爪》使用後）

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品

コネ：噂好きの友人	

ロイス

対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
Dロイス：賢者の石	P	N		
クラスメイト	P 友情	N 疎外感		
霧谷雄吾	P 信頼	N 不安		
水城美香(シナリオロイス)	P 懐旧	N 隔意		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P:	4	残り財産P：	

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：コスト分のHPで復活								
コンセントレイト：キュマイラ	2	2	メジャー		自身			
効果：C値-LV(下限値7)								
完全獣化	3	6	マイナー	至近	自身	自動		
効果：シーン中、［肉体］のダイス+［LV+2］								
獣の力	2	2	メジャー		単体	白兵		
効果：攻撃力+［LV*2］								
破壊の爪	1	3	マイナー	至近	自身	自動		
効果：素手のデータを変更								
ハンティングスタイル	1	1	マイナー	至近	自身	自動		
効果：戦闘移動する。シーンLV回								
	★							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

海泡 海十（みほう かいと)16歳の少年でキュマイラのピュアブリード。
天涯孤独の身で、昔は孤児院で生活していた。
レネゲイドに目覚めたのを機として、色々な人に助けられながらも一人暮らしを始める。
オーヴァードであるという隠し事を抱えている為、息苦しさを感じては居るが、友人との日常を守るためにその力と上手く付き合っている。

脳内設定
幼い頃に親に捨てられ、孤児院で育った子供。
孤児院に預けられてすぐ、遠目にとある光景を目撃する。オーヴァード同士の争いである。
本来は一般人に認知されるはずの無い光景だが、体に埋まっていた<賢者の石>のお陰か、単なる偶然か、海十にはソレが認識できた。
そして、海十はすぐにオーヴァードについて調べ始めた。といっても、そう簡単に調べられるものでもなく、何も知ることの無いまま月日は流れた。
その光景の記憶が薄まり始めた中学2年生の夏のコト。
友人と出歩いていると、運悪く車上荒らしグループの犯行現場を目撃してしまう。
すぐに逃げたが、中学生2人に大人4人。逃げきれるわけもなく、捕まって激しい暴行を受ける。
意識を失う寸前、脳裏を掠めたのは幼い頃に見たオーヴァードの姿。
死にたくない、助かりたい、助けたい、知りたい。色々な感情が渦巻き、意識を手放す。
気が付くと、目の前には人間が5人、血塗れで倒れていた。そして、自分の手が4人分の血で濡れていることに気づいた。（幸い、5人全員命は取り留めた）
海十は孤児院の院長に相談を持ちかけた。院長なら助けてくれる。分かってくれる。そう信じていた。
だが、その希望は欠片も叶うことが無かった。院長は海十を怪物と呼び、口汚く罵った。
一滴の涙を流し、海十は『怪物』となった。自分の意思で、院長の命を刈り取ろうとした。
しかし寸前でその腕は止まる。今まで育ててくれた恩、注がれた優しさをどうしても振り払うことができなかった。
海十は孤児院を飛び出し、UGNのエージェントに保護された。